

「現地を訪問して想うこと」

昭和 52 年 3 月 経済学部卒業 西村利之

4 年前に東日本大震災が起こった時は、東北で大きな地震が発生したという情報がすぐに入り、テレビでリアルタイムに空から撮影された映像を見たことが鮮明に思い出されます。その時は、すごいという想いと、まるで映画を見ているような感じで現実感はありませんでしたが、その後の被害の甚大さを知るにつれ、本当に大変なことが発生したということを感じました。

何かしなければいけないという思いがありながら、何もできず少しばかりの義援金を送ることで自分を納得させていましたが、現地に行ってもどうなっているのか状況を見たいという気持ちは常にありました。阪神淡路大震災の時は、仕事も関係もあり 1 ヶ月後位に現地に行き状況を見て衝撃を受けたので、そのように思っていたのかもしれませんが。

しかし、今回は遠方でもあり、また仕事や体調の問題もあって、行けずに時間が過ぎていきましたが、この東北応援ツアーがあることを知り、今年 3 月に定年退職したことから少し自由になったので、このツアーに参加してやっと被災地を見ることができました。

実際に東北の被災地を見て、感想のようなものになってしまっていますが、まだまだ復興には時間が必要と感じました。現地を見るまでは、報道等で災害発生前の状態に戻っているところを見て、かなり復興が進んでいると思っていましたが、そうではありませんでした。確かに復興しているところもありましたが、街がなくなり一面の野原のような状態が広がっていたり、盛り土等が置かれて広大な場所での工事が行われているところを見ると復興には十年、二十年といった長期的な時間がかかると感じました。

現地の校友の方々のお話をお聞きしても、いろいろな複雑な問題もあり、なかなか順調には進まないとのことでした。多くの方が住んでおられ、様々な事情があることは分かりましたが、何とか復興が早く進むことを祈るばかりです。

現地でお話をお聞きして、特に印象に残ることが 2 点ありました。

一つは、地震が起こって津波の危険がある時は、「遠くではなくて高いところにすぐに避難し、決して戻らないこと」が大切であるということです。助かった人は海から遠くではなく、少しでも高いところに避難した人であり、忘れ物とかペットが気になるということで自宅等に戻った人は助からなかったとの話が印象的でした。特に、ペットを助けに戻って方が亡くなり、ペットが自力で逃げて助かったことも多くあったと聞いて心が痛みました。

二つ目は、津波対策用の防潮堤、防波堤がかなり有効で、津波の被害を少なくしたり、津波が来る時間を遅らせて避難の為に時間を多くしたということです。防潮堤等は余り効果がなかったと今までは聞いていたので、少し驚きました。そのことから、今後の津波対策用の防潮堤等も状況に応じて沢山作られているとのことでした。

この二つのことは、今回、再認識したことであり、やはり現地に行き、現地での話を聞いて、実感したことでした。

このツアーの趣旨を事務局の方から聞き、ツアーに実際に参加して、この大震災の被災時に生きた人間として一生この災害の事実を記憶に残し、災害の発生を防ぐことが困難であっても、少しでも災害の被害を少なくする努力、また災害発生時には人々が助け合うことの重要性を、常に心に留めて生きていきたいと、強く思うようになりました。